

平成25年度の文化財事業について

はじめに

今回は、平成25年度に行った主な文化財事業のうち、「史跡松前氏城跡福山城跡」の整備事業と、国指定重要文化財「法源寺山門」の屋根葺き替え修理についてご紹介します。

史跡整備事業

試掘調査を平成19年度から22年度までに実施し、判明した旧地形を元に整備のための基本設計をして、23年度から整備工事を開始しました。堀廻り地区の整備は、今年度で終了します。で、これまでの整備の概要についてお伝えします。

堀廻り地区は、福山城本丸の西側にあつて、二ノ丸南側・東側の様な石垣で築いた外堀はこの地区には無く、本丸の土坡法面が直接中段の平場と接しています。当時の平場の状況の判る絵図は、文化4年(1807)から文政4年(1821)ま

で幕府の奉行所が福山館に置かれた時期の絵図(図1)しか無

く、これに池や水路が描かれていて

この絵図や、発掘調査で出土した水路跡を参考に木道(松前スギ使用)で、水路(写真1)を表示しています。



図1

園路については、平坦地ではチップボードを敷き、歪んだ地面や幅が大きく異なる場所については、木枠をし木質チップを厚く撒いていきます。園路の崖側には、転落防止のため、グミ・アシサイ・ウツギ・オノコなどを植栽しています。

ビューポイントには、ベ



写真1 左が水路表示の木道

ンチを設置していますので、散策時の休憩はもとより、福山城築城時の姿を残す本丸の土坡法面の、四季折々の景観をお楽しみください。

「法源寺山門」 屋根葺き替え修理

法源寺は、元和年間の1617年から1619年にかけて、大館から現在地に移転したと伝えられています。慶安2年(1649)に伽藍(寺の施設)が類焼したとされることから、現在の山門は17世紀後半の建立と考えられています。

昭和44年(1969)に、当時瓦葺きだった屋根を、

創建時の「こけら葺き」に戻す修理工事が行われました。それ以来44年間修理を行っておらず、近年傷みが激しくなってきました。この度、所有者である法源寺のご理解をいただき、国・道・町・所有者がそれぞれ応分の負担し、屋根の葺き替えと小破修理を実施しました。

屋根の葺き替えは、岡山市にある享保5年(1720)創業の屋根葺き専門の工務店から、29才と24才の若手の職人2名によって行われました。「こけら葺き」とは、薄い削り板で葺いた屋根のことで、板を3cmほどずらして平行に重ねて敷き並べ、「ヤネカナ」と呼ばれる金槌を用いて、竹釘で打ち止めて行きます。若い職人さんですが、竹釘を口に含み小気味よいリズムで、次々に竹釘を打ち「こけら」を葺き上げ(写真2)しました。特に、屋根の側面のカーブになっている部分の貼り込みには技術を要しますが、大変美しい仕上が



写真2

になっています。

「こけら葺き」以外の、屋根の頂部にある「箱棟」や、端部の「庇」の一部、さらに棟に通じる2本の円柱の親柱を水平に跨ぐ、「冠木」と呼ばれる横木の一部が腐食していました。箱棟は一度解体し傷んだ部分を新材で接ぎ、銅板を葺き直しました。庇についても、傷んだ部分を新材で差し替えました。冠木は、親柱より外側部分で、その内部が腐食していたので、新材で蓋をし銅板や飾り金物で仕上げました。これらの大工仕事や金物の補修については、地元業者の方が行いました。